



### ◎新舊内務大臣の挨拶

一月六日午後一時三十分内務省第一會議室に全廳員召集前大臣末次海軍大將は現下時局のサ中に政變があることは常識的には極めて好ましからぬ事であるも、長期建設の新段階に進み之を轉機とした政變と見れば實に已むを得ないことである。此の秋新進氣鋭な木戸侯爵を迎へられたるは寔に欣幸とする所である。今や重大なる時局下に於て諸子は新大臣の御指導の下に奉公の誠を竭されんことを望むと同時に在職中の厚意を謝する旨を述べられ、木戸新大臣は昨日圖らずも内務大臣の大臣を拜したるが、前大臣の申さるゝ通り今や國情は最も重大なるのである、斯る時内務行

雜 報

政に關しては全くの素人であるから諸君は協力一致同心一體となり内務省の使命を達成せんが爲めに援助あらんことを希ふとの主旨を述べられた。館次官は一同を代表し、末次前大臣には一年有半の間無方なる廳員を克く鞭撻せられ、時局に善處せしめられたる次第である。謹んで感謝の意を表する。自重自愛健康を回復せられ皇國の爲捲土重來の奉



公を致されんことを祈る。又木戸新大臣に於かせられては曩に文部大臣として厚生大臣として大なる成績を擧げられたるは世の普く知悉する所である、庶幾ば愚鈍なる私共を鞭撻せられ、重大なる使命を遂行し得らるゝ爲めに御指導を給はらんことを切願す。といふ主旨の答辭を述べられた。

因に新内閣員並に幹長法制局長官の一覽表を左に掲ぐ。

新内閣員並翰長法制局長官一覽表

氏名	年齢	位階勳等爵位	前經歴	出身地	出身學校
内閣總理大臣 平沼騏一郎	七三	正二勳一男爵	前樞密院議長	岡山	東大法(明治二二)
外務大臣 有田八郎	五六	從三勳一	貴族院議員	新潟	東大法(明治四二)
内務大臣 木戸幸一	五一	正三勳二侯爵	貴族院議員	東京	京大法(大正四)
大藏大臣 石渡莊太郎	四九	從四勳三	前大藏次官	東京	東大法(大正五)
陸軍大臣 板垣征四郎	五五	從三勳一 陸軍中將	留	岩手	士官學校(明治三七)
海軍大臣 米内光政	六〇	正三勳一 海軍大將	留	岩手	兵學校(明治三四)
司法大臣 鹽野季彦	六〇	從三勳二	留	長野	東大法(明治三九)
文部大臣 荒木貞夫	六三	陸軍大將 正三勳一 陸軍少將	留	東京	士官學校(明治三〇)
農林大臣 櫻内幸雄	六〇	從三勳二	衆議院議員、元商工大臣、民政黨總裁	島根	
商工大臣 八田嘉明	六一	從三勳一	貴族院議員、留任	東京	東大工(明治三六)
鐵道大臣 前田米藏	五八	從三勳一	衆議院議員、政友會代行委員、元商相、鐵相、前内閣參議	和歌山	中央大法(明治三五)
厚生大臣 廣瀨久忠	五一	從四勳三	前厚生次官	山梨	東大法(大正三)
無任所大臣 近衛文麿	四九	正三勳一公爵	前總理大臣	東京	京大政治(大正六)
内閣書記官長 田邊治通	六二	正四勳二	元大阪府知事	山梨	東大法(明治三八)
法制局長官 黑崎定三	五五	從三勳二	貴族院議員	京都	東大法(明治四四)

## ○挾間新土木局長着任

一月十四日着任直に登省、土木局總員を第二會議室に召集せられて一場の挨拶を述べられた。「天真素朴忠誠を竭して奉公するの決心である、土木行政に關しては經驗に乏しきも此の特異性をもつ行政は他の内務行政と渾然調和一致せしむることに依つて

其の特異性を發揮せしむることを得ると信ず

る。飾らず僞らず赤裸

となつて協力する處に

僞りなき眞の一致がある、自分としては前述の如く天真素

朴赤誠をつくして其の局に當る決心なるが故に諸君に於て

も亦何等飾り氣なき心構を以て其の職責を完うせられんこ

とを望む云々」との主旨を訓示せられ、辰馬技監は總員を

代表して「行く所として必らず功績を擧げられ特に昨年土

浦沿岸地の湛水數十日に及び同地方民の苦痛例へ難き裡に



克く民衆を慰撫して毫も怨嗟の聲を聞かざりしは寔に行政の妙を得られたる證左で深く敬服する次第である。今日此の局長を迎ふに當り歡喜に堪へない所である云々、と答辭を述べられた。尙挾間土木局長の略歴は次の通りである。廣島縣福山の三谷家に明治二十六年三月二十四日誕生後岡山市大字富田三〇番地挾間家に入る、明治四十四年九月岡山第六高等學校に入學特待生に選定せらる、大正三年七月卒業同年九月東京帝國大學法科大學に入學特待生に選定せられ、小寺獎學賞金を受領せらるゝこと三回、同八年七月大學卒業直に内務屬（地方局勤務）同年七月和歌山縣理事官同十一年六月神奈川縣理事官を歷任同十二年四月内務事務官に轉じ、同十三年七月内務省參事官兼任昭和四年一月歐米各國へ出張を命ぜらる。同五年一月歸朝、同六年二月地方局行政課長となり同七年六月内務大臣秘書官兼任、大臣官房文書課長となり同年七月資源局事務官に任ぜらる。同九年九月大臣官房人事課長に轉じ、同十年一月社會局部長（社會部長）、中央職業紹介事務官長に補せらる、同十一

年三月内務省衛生局長に轉じ同年六月土木會議臨時議員を命ぜらる、同十三年一月茨城縣知事に任ぜられ本年一月十一日土木局長に轉ぜられた。

### ◎新港灣課長高橋庸彌氏

明治三十四年五月十日長野縣諏訪郡玉川村に生る。大正十二年四月東京帝國大學法學部に入學、同十四年四月小寺賞金を授與せらる、同年高等試験行政科合格、同十五年三月東京帝國大學法學部卒業大分縣屬となり昭和二年九月警部兼任、同三年六月地方警視(新潟縣)となり、同七年四月神奈川縣に轉ず、同十一年七月警視廳警視同十三年一月石川縣書記官(警察部長)に歴任本年一月十一日生悅佳氏の後任土木局港灣課長に任ぜられた。

### ◎内務省土木試験所談話會

昭和十四年一月中旬に開催したる土木試験所談話會に於ける話題は次の通りである。

#### 第一八三回技術談話會話題(昭一四…一)

時日 昭和一四年一月一三日(第二金曜) 午後一時半—四時  
場所 本郷區駒込上富士前町二六 内務省土木試験所講堂

- 一、科學振興の趨勢に就て(約二〇分) 藤井 技師
- 二、關門國道トンネルの計畫に就て(約一時間)  
(土木局) 加藤 技師

- 三、利根川新放水路の計畫に就て(約一時間)  
(土木局) 富永 技師

#### 第一八四回技術談話會話題 (昭一四、二、)

時日 昭和一四年一月二五日(水) 午後一時半—四時

#### Mississippi 河改修工事に關する調査

- 一、Mississippi 河の改修計畫(四〇分) 横田 技師
- 二、Vicksburg に於ける水理實驗所(二十分)  
佐藤 清一

- 三、堤防に關する研究(二〇分) 片平 信貴

- 四、Mississippi 河改修工事施工(四〇分) 安藝 技師

### ◎近刊圖書雜誌

○昭和十二年直轄工事年報並附圖

内務省土木局河川課に於て編纂したる統計である。昭和十二年度に於ける治水事業、港灣改良事業、復舊補修及應急事業、國道改良事業、年度内施行工業、竣工工事につき統計したるもので精密なる圖面を附添す。

○土木建築工事畫報(第一五卷一號)

(外地技術家慰問特輯號)

○法律時報(第一一卷一月號)

○大阪商工會議所月報(第三八〇號)

○土木(第四七號)富山支部特輯號)

(富山縣の道路と治水事業、富山縣の道路愛護概況其他

富山縣下の河川、橋梁、港灣、砂防等の概況)

○警察協會雜誌(第四六四號)

○水利と土木(第一二卷一號)六大土木事業記念號)

(安藤土木局長)土木大事業の豫算の成立を悦ぶ)

○臺灣技術協會誌(第二輯 六號)

(新東亞の建設と技術者の決意)

○セメント界彙報(第三七〇號)

(久野重一郎氏)獨逸自動車道路に就て)

○石油時代(十四年一月號)

(ア・シビルト)石油と戦争、伊太利の燃料政策)

○早稻田建築學報(第一五號)

(鶴田明氏)鐵筋熔接に關する研究、太田靜六氏)宇津保物語に現はれたる宮室建

築、内藤多仲氏)電氣熔接の重要性)

○自警(一月號)

○國立公園(第一一卷一號)

○乘合自動車(第一三卷一號)

(川井健太郎氏)ガソリンの消費統制と自動車事業の將

來、横川四郎氏)東京市と交通統制)

○清和(第五卷一一號)

○北海道帝國大學工學部紀要(第五册一號)

○土木學會誌(第二五卷一號)

○竣工(第一四卷一二號)

○觀光聯盟情報(第三卷一號)